

総会時最終覆土に対する質問の回答

最終覆土分科会

Q1. 侵食防止層に使用する覆土材によって浸透量が変わるのでは？

覆土材からの浸透量は、「LS 研の研究報告，道路土工 排水工指針」に明記されているように降雨の流出係数が条件によって一様でないのと同じく、覆土材の条件等によって変化します。

実施中の散水実験では侵食防止層(覆土材)で流出する水は評価対象とせず、侵食防止層を通して浸透した水の量に対する浸透率という考えによって、散水実験による浸透率を評価しています。

侵食防止層の浸透量を考慮し廃棄物への浸透率を考える際には、上記の「LS 研の報告書，道路土工 排水工指針」等を参考に浸透防止層の浸透量を検討し、散水実験における散水量を基に考える方法を提案します。

Q2. 敷設勾配の3%を管理するのは困難では？

浸透防止層下部への浸透率は、浸透防止層の垂直方向の透水性と、浸透防止層の上部で排水時に存在する水頭が関係すると考えられます。浸透防止層の垂直方向の透水性は敷設勾配にかかわらず一定と考えられ、また水頭に関しては排水材の面内方向の排水状態及び排水材の形状により変化すると考えられます。CP 会で提案する構造では、浸透層上部にエンボス形状の排水層(面内方向透水性に優れる排水材)を使用しているため、水頭としては敷設勾配による影響よりもエンボス形状(凹凸の大きさ)による影響が大きいと考えられます。このため、若干の勾配変化が存在した場合でも、散水実験の結果である 5~15%(排水層:10mm)や 15~25%(排水層:5mm)の範囲の浸透率に落ち着くと想定しています。また、九州大学島岡教授が実施された数値シミュレーションにおいても勾配が雨水浸透制御効果に及ぼす影響は小さいことが確認されています。(今後の実験で実証する方向で検討を行いたいと思います。)

Q3. 接合部分についての評価は？

接合部分についての評価は、全体面積における割合が少ないためその影響は少ないと考えられますが、平成 19 年度の検討課題として検討します。

Q4. 散水実験による三層(排水層, 浸透防止層, ガス排除層)での性能だけではなく単層でのデータは必要ないのか？

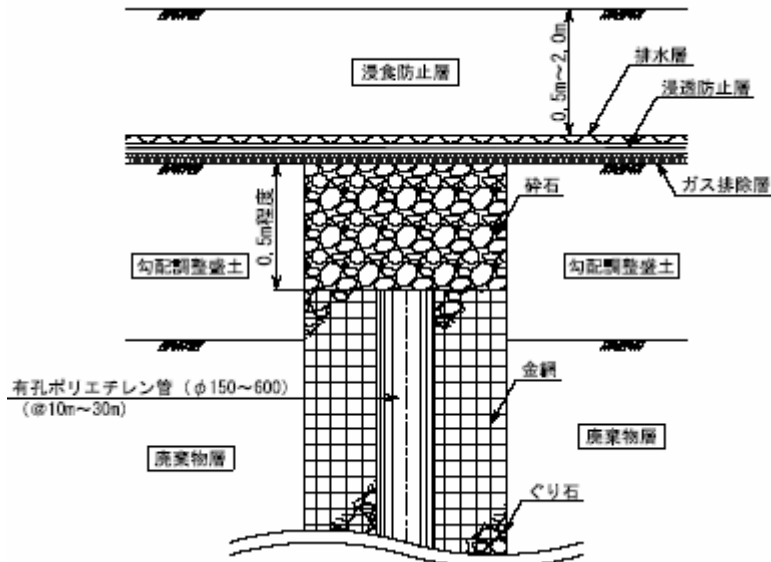
各メーカーにより各材料の必要性能は評価済みです。技術資料を参照して下さい。

Q5. 能代施工実績における 20~25%の浸透率という性能の確認方法は？

秋田県の事前検討段階において、立命館大学の降雨実験装置により、浸透率の確認を行っています。

Q6. ガス抜き部分の構造の標準化

豎型ガス抜管一般詳細図 (例) $\approx 1:30$



Q7. 遮水シートとの取り合い

外周端部詳細図 (例) $\approx 1:30$

